

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-3-2
県立病院における良質な医療提供

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 病院局県立病院課長 黒目浩喜 電話番号 0853-22-5111

事務事業の名称	こころの医療センターによる児童思春期医療の実施	
目的	(1) 対象	児童思春期における専門的精神医療が必要な人
	(2) 意図	適切な医療を受けている
事業概要	児童思春期における複雑化、多様化する病態に対し、児童思春期病棟や専門外来等を活かし、児童思春期における適切な精神医療及び適切なケアを実施する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	児童思春期外来新規受診者数	目標値	145.0	145.0	145.0	145.0	人	
			取組目標値						
	式・定義	児童思春期外来新規受診者数	実績値	117.0	121.0	123.0			
			達成率	80.7	83.5	84.9	-	-	%
2	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	0	0
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

こころの医療センターでは昭和44年の開院当初から児童・思春期の精神疾患治療に積極的に取り組んでおり、児童思春期外来や専用病棟の設置のほか、分校を併設するなど、専門的な医療を提供している。
外来については患者数が増加し、当院の医師の体制では将来的に対応困難になると思われる時期があったが、その後、平成24年度から開始された県の「子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環として患者さんのトリアージを実施し他の関係機関と連携を取るようになったため、新規患者数は減少し、近年安定的に推移している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

従来、こころの医療センターに患者が集中し、当院の医師の体制では将来的に対応困難になると危惧される状況もあったが、平成24年度から開始された県の「子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環として患者さんのトリアージを開始したことにより、より病院での専門的な治療を必要とする患者さんに対して適切な治療を提供できる体制となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

診療予約が多く、新規受診までに1ヶ月程度の時間を要する場合がある

②困っている状況が発生している「原因」

以下のような理由により再診患者が多い
 ・診療が長期にわたるケースが多い
 ・家庭の対応力が低下している
 ・児童思春期の精神科診療に携わる医師が少ない。特に高校生世代以上を受け入れる医療機関が少ない。

③原因を解消するための「課題」

・当院の医師の体制強化
 ・小児科や精神科をはじめとする他の医療機関との連携強化

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

関係大学や（一社）しまね地域医療支援センターとの一層の連携を図り、医師の確保・育成に努めるとともに、専門医の資格取得支援や学会への積極的派遣等により、職員の資質向上に努め、より専門的で高度な医療の提供を目指す。
また、子どもの心の診療ネットワーク事業を活用した研修会の開催などにより、他の医療機関の専門的知識の向上を図り、受け入れ体制の強化を図る。医療機関だけでなく各関係機関との連携を取りながら、複数の関係機関が協力して患者さんを支える体制を構築していく。